

トプシー・ターヴィー (1999)

TOPSY-TURVY

メディア 映画

ジャンル ドラマ 音楽 コメディ

製作国 イギリス

色彩 Color

時間 161分

公開情報 NHK衛星第2で放映

【解説】

俳優の即興的演技を軸とした独特の演出法で知られる「ネイキッド」「秘密と嘘」のマイク・リー監督が、それらの作品群とは趣を異にするスタイルで挑んだ音楽ドラマ。19世紀末のイギリスで人気を誇った喜歌劇の作家・作曲家コンビ、ギルバートとサリヴァンが、紆余曲折の末、喜歌劇『ミカド』を成功させるまでの舞台裏で起こる様々な人間模様を描く。タイトルの“トプシー・ターヴィー (Topsy-Turvy)”とは、“めちゃくちゃ、混乱”の意で、本作では舞台ができあがるまでの様子を表している。アカデミー賞で脚本賞をはじめ4部門にノミネートされたほか、各映画賞で高い評価を受けた作品ながら、日本では残念ながら劇場未公開のまま、2004年2月にNHK-BSにて初紹介となった。

1884年、ロンドン。それまで数々の人気喜歌劇を手掛けてきたギルバートとサリヴァンだったが、期待の最新作は“マンネリ”と厳しい評価を受けてしまう。サリヴァンはもう喜歌劇の作曲に情熱を失い、芸術性の高い正歌劇へ志向し、コンビは解散の危機に陥る。サリヴァンを何とか引き留めたいギルバートではあったが、彼もまた自らの創作活動に行き詰まりを感じていた。そんなある日、ギルバートは妻の執拗な誘いに負け、当時万博で大評判を呼んでいた日本展に足を運ぶ。彼はそこでこれまでに見たこともない異質な文化に触れ、『ミカド』の着想を得るのだった。

【クレジット】

| | | | |
|----|-------------------|-------------------------|------------|
| 監督 | マイク・リー | Mike Leigh | |
| 製作 | サイモン・チャニング＝ウィリアムズ | Simon Channing-Williams | |
| 脚本 | マイク・リー | Mike Leigh | |
| 撮影 | ディック・ポープ | Dick Pope | |
| 美術 | イヴ・スチュワート | Eve Stewart | |
| 出演 | ジム・ブロードベント | Jim Broadbent | ギルバート |
| | アラン・コーデューナー | Allan Corduner | サリヴァン |
| | ティモシー・スポール | Timothy Spall | リチャード・テンプル |
| | レスリー・マンヴィル | Lesley Manville | ルーシー・ギルバート |
| | ロン・クック | Ron Cook | ドイリー |
| | ウェンディ・ノッティンガム | Wendy Nottingham | ヘレン |
| | エレノア・デヴィッド | Eleanor David | ファニー |
| | デクスター・フレッチャー | Dexter Fletcher | ルイス |
| | ケヴィン・マクキッド | Kevin McKidd | ダーウォード |
| | マーティン・サヴェッジ | Martin Savage | グロスミス |
| | シャーリー・ヘンダーソン | Shirley Henderson | レオノーラ |
| | カトリン・カートリッジ | Katrin Cartlidge | |
| | アリソン・ステッドマン | Alison Steadman | |
| | アンディ・サーキス | Andy Serkis | |